

【1】氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策

■ 排水機場のポンプ更新

- ・ 鉦害復旧事業で建設された排水機場(7施設)は、現在では建設30年から40年を迎えている。
- ・ 今後は老朽化により整備・更新が必要となる施設が増加することが予想され、これに伴い施設の維持管理に要する費用も年々増加すると考えられることから、計画的な排水機場のポンプの更新が必要。
- ・ まずは、令和4年度 **満神排水機場のポンプ更新**に向けた設計委託を行う。



令和3年8月14日 18:00 撮影

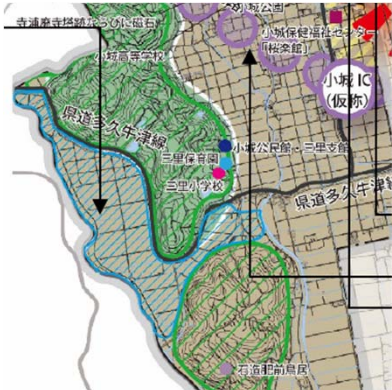
【2】被害対象を減少させるための対策

■ 都市計画マスタープランの見直し

- ・ 現行の小城市都市計画マスタープランに「**六角川水系**」関連方針を追記、又地域別構想(4町別)を見直しにより追加している。
- ・ 地域別構想には①地域の概要、②住民意向等、③地域づくりの目標、④地域づくり方針(方針図)の4項目で構成し、方針については、①拠点形成、②市街地整備、③交通基盤整備、④環境・資源の保全・活用、⑤**防災対策**の5つの視点で分類。
- ・ 今後、立地適正化計画についても見直しの検討を行う。



令和4年3月策定



小城市地域の地域づくり方針には遊水地事業についても掲載

## 【3】被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

### ■ 防災情報を共有できる情報アプリの改良と周知及び活用の推進

- ・ 市が発信する大雨警報や避難所などの防災情報をプッシュ通知で知らせる。
- ・ 災害情報だけでなく、「天気予報」や「市の情報」などが見れることを活かし、住民に広く周知し、**平時からの利用の推進**を行う。
- ・ 防災行政無線、災害情報等配信サービスに加えて、災害情報を発信するツールとして活用し、継続的に改良、**住民への周知**を行なっていく。

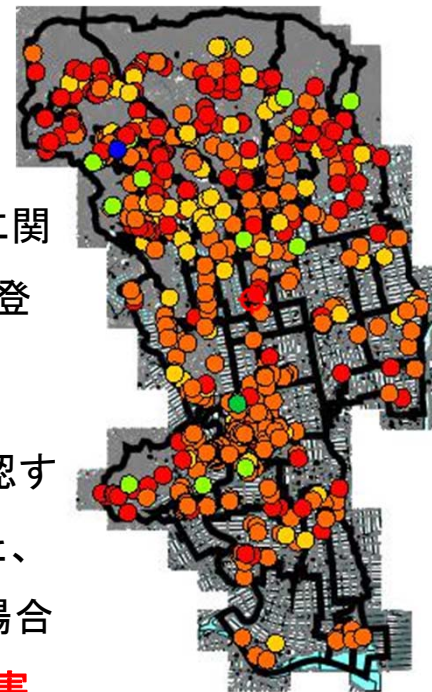


### ■ 避難確保計画の作成の推進

- ・ 洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域に位置する要配慮者利用施設へ避難確保計画説明会等の実施(対象施設は108施設)
- ・ 令和4年3月末までに対象となる要配慮者利用施設の**避難確保計画作成完了を目指す**。

### ■ 防災システム(GIS)の運用開始

- ・ 令和3年8月豪雨災害から本格稼働。
- ・ 住民による電話、現地確認等災害対応に関わるすべてを防災システム(GIS)に登録。(登録件数:約750件)
- ・ 全庁的に被災箇所、問合せ情報等を確認することができ**情報の共有化**が図られた。また、災害の受付部署と現地対応部署が異なる場合でも引継ぎをスムーズに行うことができ、**災害対応の迅速性**につながった。



令和3年8月豪雨災害プロット状況